

## ② 青井地区 復興まちづくり計画

### 対象地域

上青井町、中青井町、下青井町、駒井田町、城本町

青井地区は、中心地の一翼として、くらしの再建、コミュニティの再生や避難対策とともに、青井阿蘇神社を中心とした歴史文化を活かした賑わい形成を中心に、復興まちづくりを進めます。

### （１）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

#### 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

##### 住まいの再建

##### □住まいの再建と安全性の向上

○復興まちづくりの取組が進められる中、早期の住まいの再建や安全性の高い住まいの再建に関する支援策の充実が求められています。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・国道445号の拡幅計画の内容や嵩上げの方針等を早く示してほしい。

##### コミュニティの再生

##### □地域コミュニティの再生

○被災により世帯数が減少する中、活動拠点である町内会館の復旧や、町内会コミュニティの再生が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・町内会館を早く復旧したいが財源が厳しい。
- ・世帯数の減少により町内会の運営継続が懸念される。
- ・小学生～高校生の人数が減っており、祭りの際は他町内から手伝いに来てもらっている。

#### 取組の柱② 力強い地域経済の再生

##### なりわいの再建

##### □なりわいの再建と賑わいの再生

○経済的な負担や後継者問題等により、商店等の再建に課題があります。個人のなりわいの再建や、まちぐるみの賑わいの再生に向けた取組が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・商店街の集約化を考えられないか。
- ・なりわい再建支援補助金は、テナントオーナーによる改修には適用されないことがネック。

## □観光資源の活用促進

- 青井阿蘇神社、温泉、SL、映画撮影現場等の観光資源を活かし、観光の復興のイメージづくりに取り組む必要があります。

## 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

### 避難対策

#### □安全な避難ルートの確保

- 避難場所・避難所への南北方向の避難路を確保するため、補助的な避難路整備が必要です。
- 人吉西小学校、球磨工業高校へ上る斜面地のルートの安全確保が必要です。
- 避難路の整備に当たっては、車でのスムーズな避難ができるような対策が必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・人吉西小への避難ルートは川・線路・崖に囲まれ、冠水しやすく問題が多い。

#### □避難場所や避難施設の確保・機能の改善

- 垂直避難や車の避難ができる、浸水しない避難場所・避難施設の確保が必要です。また、避難所におけるペットの受入れなど、機能や運営面の改善が必要です。
- 民間施設を活用した避難場所の確保には、所有者の意向確認や協力依頼が必要です。

#### □安全な避難の仕組みづくりと体制の強化

- 安全な避難を実現するためには、いち早く避難する心がけと事前の準備や、情報発信の工夫、要支援者への支援体制の充実が必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・一人暮らしの高齢者は自動車を所有しておらず、避難できない方が多い。町内の90%が浸水被害を受ける想定での体制検討が必要。
- ・夜間の避難対策も必要。
- ・避難のためのマニュアルやルールが必要。
- ・これまでの被災経験や日頃の訓練を活かしていくことが重要。

### 治水・土砂災害対策

#### □河川の氾濫対策

- 令和2年7月豪雨では、球磨川や山田川等の支川その他、平常時は水の流れない溝からも水が溢れ、住民に混乱をきたしました。治水対策を進め、河川の氾濫を抑える必要があります。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・山田川から水があふれるとは思わなかった。水の出方が早く、国道が川になった。
- ・普段は何も流れていない溝から水が溢れてきた。いつもと違った。
- ・支流（山田川、鬼木川）の堤防の決壊が懸念される。
- ・堤防が高いと温泉街から川が見えなくなる。治水対策との両立が必要。

## □急傾斜地周辺の安全確保

○高台にある避難場所・避難所への避難路の安全確保が必要です。

## 復興まちづくり

### □地区の魅力の再生とさらなる向上

○青井地区に「戻ってきたい、行ってみたい、元気になってきた」と思える、地区の魅力や“らしさ”を高めるまちづくりが必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・人吉には喫茶店が少ない。
- ・青井地区は“観光”が第一。以前以上の魅力をつくっていかないと、観光客は戻ってこないのではないか。

### □地域資源や特性の積極的活用

○青井阿蘇神社をはじめとした歴史的・文化的資源や球磨川との関係性など、地域資源や地区の特性を積極的に活かしたまちづくりが必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・青井阿蘇神社の復興が必要。
- ・人吉旅館は文化財として後世まで守っていきたい。
- ・ＪＲ肥薩線の早期復旧が必要ではないか。
- ・球磨川とは共存関係にある。

### □空き地等の増大によるまちなか空洞化への対応

○人口や観光客等が減少し、空き地・空き家等が増大することにより、再建意欲の低下や地区の環境の悪化、経済活動の衰退等が懸念されます。空き地等を積極的に活用する仕組みづくりが必要です。

### □地区にふさわしい国道のあり方検討

○将来を見据え、国道（都市計画道路）の幅員やルートのあり方等について検討していく必要があります。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・歩道がない区間の歩行者の安全性が問題。
- ・道路拡幅が青井阿蘇神社周辺の賑わい低下につながらないように留意すべき。





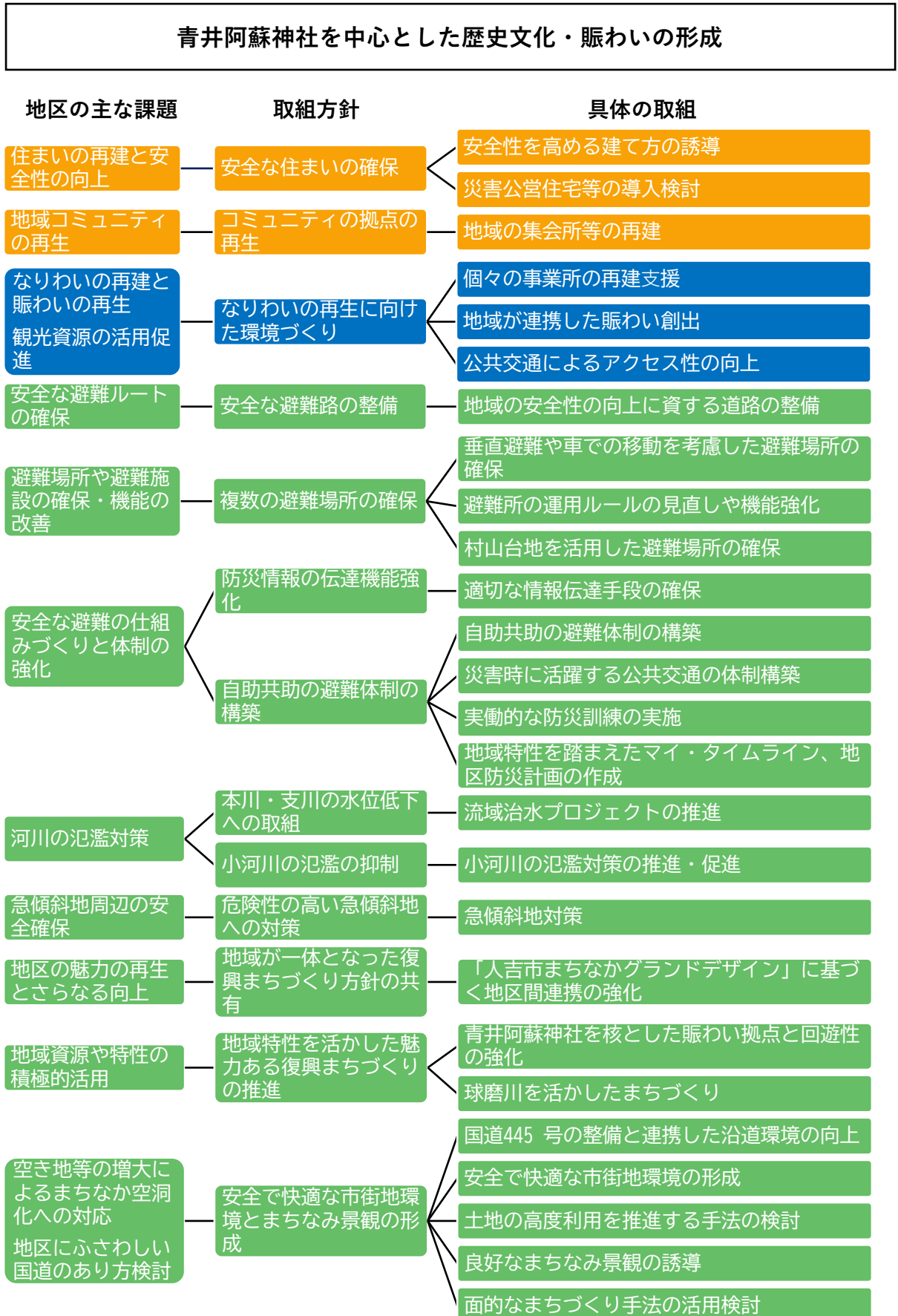






## （２）課題解決のための取組

### 【復興まちづくりの目標】



## 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

### 住まいの再建

#### 取組方針1：安全な住まいの確保

地区の特性や治水対策の状況、復興まちづくりの状況を踏まえ、安全な場所での再建や、住まいの安全性を高める修復・再建方策等の選択肢を検討します。

##### 具体の取組

##### ☐ 安全性を高める建て方の誘導

- ・建物1階のピロティ化、想定浸水深以上の居室の確保。
- ・建物構造の耐水化。
- ・宅地の盛土・一部嵩上げ。
- ・共同での高い階層のビル建築。
- ・地区内移転を希望する戸建て住宅の売却希望地への移転や宅地嵩上げの検討。  
（低地は、高い階層の共同住宅、非住居系建物、緑地等へ再配置を検討）

##### ☐ 災害公営住宅等の導入検討

### コミュニティの再生

#### 取組方針2：コミュニティの拠点の再生

町内会や地域コミュニティの活動を支える町内会館等の拠点施設の再建・修復等を行い、町内会を中心としたコミュニティの再生を図ります。

##### 具体の取組

##### ☐ 地域の集会所等の再建

- ・町内会館の復旧とさらなる支援検討。  
（駒井田町内会館は解体済、令和4年3月再建完了見込み）  
（下青井町内会館の防災機能等強化の検討）

## 取組の柱② 力強い地域経済の再生

### なりわいの再建

#### 取組方針3：なりわいの再生に向けた環境づくり

個別の再建支援の他、まち全体のなりわいの再生に向け、まちなかの賑わい創出や観光のイメージづくりにつながる魅力的な環境づくりに取り組みます。

##### 具体の取組

##### □個々の事業所の再建支援

- ・店舗の再建支援。
- ・テナント再建支援の検討。

##### □地域が連携した賑わい創出

- ・地域が連携し一帯となった賑わい形成。
- ・「人吉ひかりの復興計画」と連携した夜の散策ルートの整備。

##### □公共交通によるアクセス性の向上

- ・人吉駅とバスの提携による高速バス停留所の設置検討。
- ・JR 肥薩線の早期再開。

## 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

### 避難対策

#### 取組方針4：安全な避難路の整備

浸水・土砂災害の危険性を踏まえ、避難場所までの避難路の整備・充実を図ります。整備内容の検討に当たっては、平常時の通学等の利用の安全性にも十分に留意します。

##### 具体の取組

##### □地域の安全性の向上に資する道路の整備

- ・災害時の活動や避難に資する幹線道路交通処理の多重化。
- ・避難場所とまちをつなぐ避難路の充実。  
（道路拡幅、浸水・排水対策、南北方向の新たな道路整備など）
- ・人吉西小学校、球磨工業高校へ上がる避難路の整備。  
（車での移動・離合対策、複数ルートの確保、土砂災害対策など）
- ・子ども等の安全な通行に資する信号機や歩行スペースの確保。

## 取組方針5：複数の避難場所の確保

指定緊急避難場所の他、一時避難が可能な避難場所として、水害時の垂直避難場所や、高齢者等が避難所へ移動する前の一時集合場所となる公園等を整備・確保するなど、まちなかに複数の避難場所を確保します。

避難所については、避難後の不安を軽減するため、避難所の機能や環境、運営体制等を整えます。また、観光客の避難所利用やペットの同行避難を想定し、避難所施設の確保や運営方法の見直しを図ります。

これらの避難場所は、想定浸水深のレベルに応じ、避難のあり方を検討します。

### 具体の取組

#### ☐ 垂直避難や車での移動を考慮した避難場所の確保

- ・避難所の建替え、浸水対策。（駒井田町公民館等）
- ・最寄りの垂直避難が可能な避難ビル等の確保。

（高層階のある建物への協力依頼、災害時利用に関する協定の締結、避難ビル指定、利用ルールの検討）

- ・新たな建物整備における避難空間の確保。（想定浸水深以上の高さに避難スペースを持つ避難ビル等の整備や民間誘導、駅周辺への立体駐車場の整備など）
- ・一時避難場所の拡充検討と自主避難所の覚書の締結。

#### ☐ 避難所の運用ルールの見直しや機能強化

- ・観光客の避難場所の確保と受け入れのルールづくり。
- ・ペットの避難の受け入れ場所の確保とルールづくり。

#### ☐ 村山台地を活用した避難場所の確保

## 取組方針6：防災情報の伝達機能強化

緊急時に正しい情報を迅速に、適格に伝えるための情報伝達手段を整えます。

### 具体の取組

#### ☐ 適切な情報伝達手段の確保

- ・各世帯への防災ラジオの配布。（市より、令和3年6月から順次配布）

## 取組方針7：自助共助の避難体制の構築

住民が自身の身を守るための自助の取組や、地区内の共助の体制構築を行うための取組を促進します。要支援者の避難支援体制の強化に向けては、地域ぐるみで取り組み、リスクを分散する体制を構築します。

また、市内外の好事例を共有し、互いに学び合う環境を整えます。

### 具体の取組

#### □自助共助の避難体制の構築

- ・普段からの避難の準備や備えの実施  
（例）自宅での垂直避難の備え、高い場所への大切な物の保管等
- ・町内の組織体制と避難支援体制の強化。
- ・自主防災組織の組織体制の強化。
- ・各取組の手法や参考事例の共有。

#### □災害時に活躍する公共交通の体制構築

- ・タクシー会社等との連携強化。

#### □実働的な防災訓練の実施

- ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での実働的な避難訓練の実施。  
（消防団との連携、夜の時間帯の訓練、企業等と連携した参加促進の呼びかけ等）

#### □地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成

- ・地区内での避難の仕方や連携体制の確認・検討
- ・避難のタイミングを判断する地域独自の“きっかけ”の検討。
- ・防災士や専門家等と連携した各地区の活動の支援の検討。
- ・地区の災害リスクを踏まえた、時系列での防災行動計画の作成。

## 治水・土砂災害対策

## 取組方針8：本川・支川の水位の低下への取組

広域的な流域治水プロジェクトと連携し、水位低下への段階的な対策の検討を行います。水辺の景観に留意した堤防のあり方等、まちの風情に適した安全確保の方策を検討します。

### 具体の取組

#### □流域治水プロジェクトの推進

- ・流域治水プロジェクトの推進（流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地や田んぼダムの整備等）。
- ・景観に留意した堤防の検討（江戸時代の石垣、城壁風など）。
- ・支流の堤防の強化（山田川、鬼木川）。

## 取組方針9：小河川の氾濫の抑制

排水・浸透・貯留対策により、被害の軽減や避難時間の確保を図ります。

### 具体の取組

#### ☐ 小河川の氾濫対策の推進・促進

- ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策。
- ・御溝川の開渠化（氾濫状況確認）。蓋掛け側溝の堆積土砂の早期点検と撤去。

## 取組方針10：危険性の高い急傾斜地への対策

暮らしの安全や避難時の安全確保のため、危険性の高い急傾斜地の対策を図ります。

### 具体の取組

#### ☐ 急傾斜地対策

## 復興まちづくり

## 取組方針11：地域が一体となった復興まちづくり方針の共有

地域が一体となって、人吉らしい復興まちづくりに取り組み、良好な市街地環境の形成と暮らしの再建に取り組むため、まちの将来像やまちづくりのコンセプト、取組方針を共有します。

土地利用のあり方や拠点やネットワークの形成方針に基づき、道路・公園等の都市基盤の充実や空き地等の活用方策、宅地利用の増進を図るための面的整備手法や規制誘導手法等の検討を進めます。

住民、事業者をはじめ、まちの関係者がまちづくりの方針を共有し、多様な主体の活躍により、復興まちづくりの取組を推進します。

### 具体の取組

#### ☐ 「人吉市まちなかグランドデザイン」に基づく地区間連携の強化

- ・住民・事業者等、まちの関係者が共有のビジョンを作成し、中心市街地地区、麓町・老神地区を含むまちなか全体の活性化にもつながるよう、相互に連携し、多様な主体の活躍により復興まちづくりを推進。



## 取組方針 12：地域特性を活かした魅力ある復興まちづくりの推進

青井阿蘇神社周辺は、観光・歴史文化拠点として、門前町としての歴史性や文化財、球磨川の水辺空間等を活かし、賑わい環境の魅力強化を図るとともに、中心市街地や人吉城址、人吉駅等との連携強化により、回遊性の向上に取り組みます。

また、良好な景観資源・眺望等を、次世代により良い形で引き継ぐため、まちなみ景観の維持・増進を図るとともに、地域の交流・コミュニティ活動の活性化につながるような場づくりに取り組みます。

### 具体の取組

#### □ 青井阿蘇神社を核とした賑わい拠点と回遊性の強化

- ・ 青井阿蘇神社の更なる拠点化と周辺文化財等の復旧支援。
- ・ 景観計画に基づく良好な景観形成の規制・誘導。
- ・ 青井阿蘇神社から球磨川方面の眺望や人吉橋から神社の森への眺望の確保。新たな建築物の高さ規制。
- ・ 蓮池や文化財等を含めた、一体的な賑わい空間の創出と回遊環境の魅力強化、交流拠点施設の整備検討。
- ・ 青井阿蘇神社周辺での公園・広場等の環境整備。
- （「球磨絵図」を活かした魅力ある環境づくり、交流・イベント可能な場づくり）
- （青井の杜と呼べるような、緑豊かな環境づくりを青井阿蘇神社周辺へ拡大）
- ・ 青井阿蘇神社と周辺の文化財や球磨川を結ぶ空間の門前町としての整備と雰囲気づくり。
- ・ 観光客が宿泊地を起点にまち歩きを楽しめる環境づくりや写真映えする演出。
- （着物・浴衣・下駄利用や、水辺のライトアップなど）
- ・ 人吉駅周辺の鉄道を核としたまちづくり拠点の形成。
- ・ 新規出店希望者への空き地・空き店舗の情報共有・発信と誘致促進。
- ・ まちなか駐車場の強化。（公共駐車場の導入含む）
- ・ サイクリングロードの整備検討。
- ・ 拠点間を散策可能な回遊軸の充実。
- （中心市街地や人吉城址との連携強化により青井地区全体が賑わうようなまちづくり）

#### □ 球磨川を活かしたまちづくり

- ・ 水辺を活かした空間づくり。
- ・ 水辺の景観を楽しめる環境づくり。

## 取組方針 13：安全で快適な市街地環境とまちなみ景観の形成

住まいの安全確保や避難路、避難場所等の整備と併せ、宅地利用の増進や快適な市街地環境の形成に資する道路や公園等の基盤整備に向けた検討を行います。

### 具体の取組

#### □国道 445 号の整備と連携した沿道環境の向上

- ・安全で歩きたくなる歩行空間の充実、禊橋周辺の門前町としての賑わい形成や神社西側の市街地の環境の向上等に資する幅員構成の検討、沿道の歴史文化資源を阻害しない道路区域、緊急輸送路として車が離合可能な車道の確保、沿道商業施設への配慮など。
- ・国道 445 号の整備と連携した沿道への店舗等の立地誘導。（1 階は店舗、2 階以上は住宅など）

#### □安全で快適な市街地環境の形成

- ・宅地利用増進、避難等に資する区画道路の整備検討。
- ・快適な市街地環境形成、避難等に資する公園等の整備検討。
- ・空き地等を活かした公園整備等による、高齢者の居場所づくり、子どもの遊び場、多世代交流の場づくり。
- ・まち歩きをしたりできるような道路整備や、交通規制による賑わい創出。

#### □土地の高度利用を推進する手法の検討

- ・空き地等の活用や土地の高度利用による、共同住宅、共同店舗、立体駐車場等（一部避難ビルを兼ねる）の整備検討。
- ・官民連携事業の創出検討。（民間活力を導入する手法や公共施設等の複合化など）

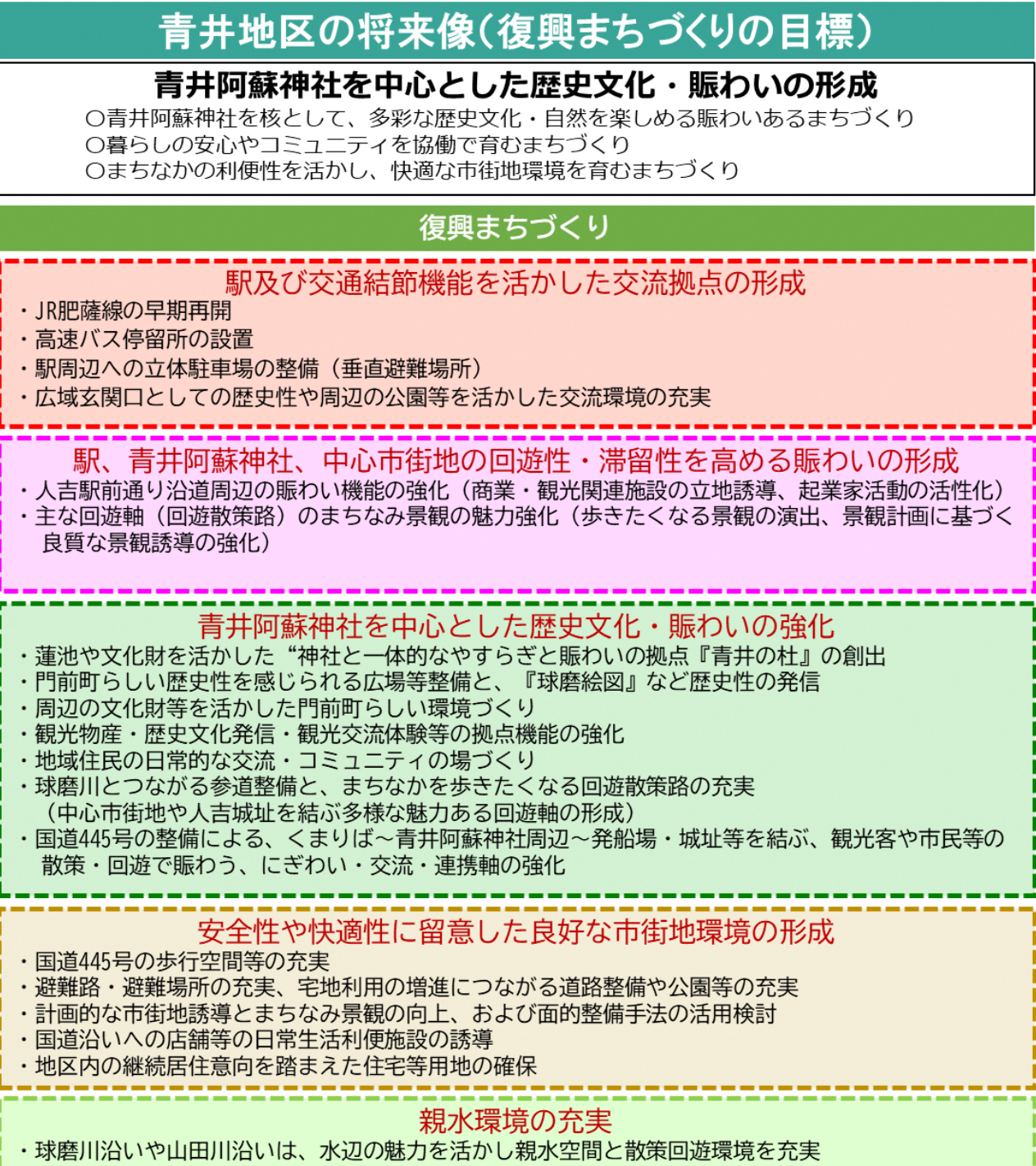
#### □良好なまちなみ景観の誘導

- ・地域特性を活かしたまちなみ景観の向上。
- ・まちなかの緑化。
- ・地区の魅力向上に資する建築活動等の規制誘導手法の適用検討。

#### □面的なまちづくり手法の活用検討

- ・安全で快適な市街地環境形成等に資する面的まちづくり手法（区画整理等）の活用検討。（道路が狭い、接道上の課題がある、空き地が多い等の地区で有効）
- ・地区内移転を希望する戸建て住宅の売却希望地への移転に対する区画整理等の活用検討。



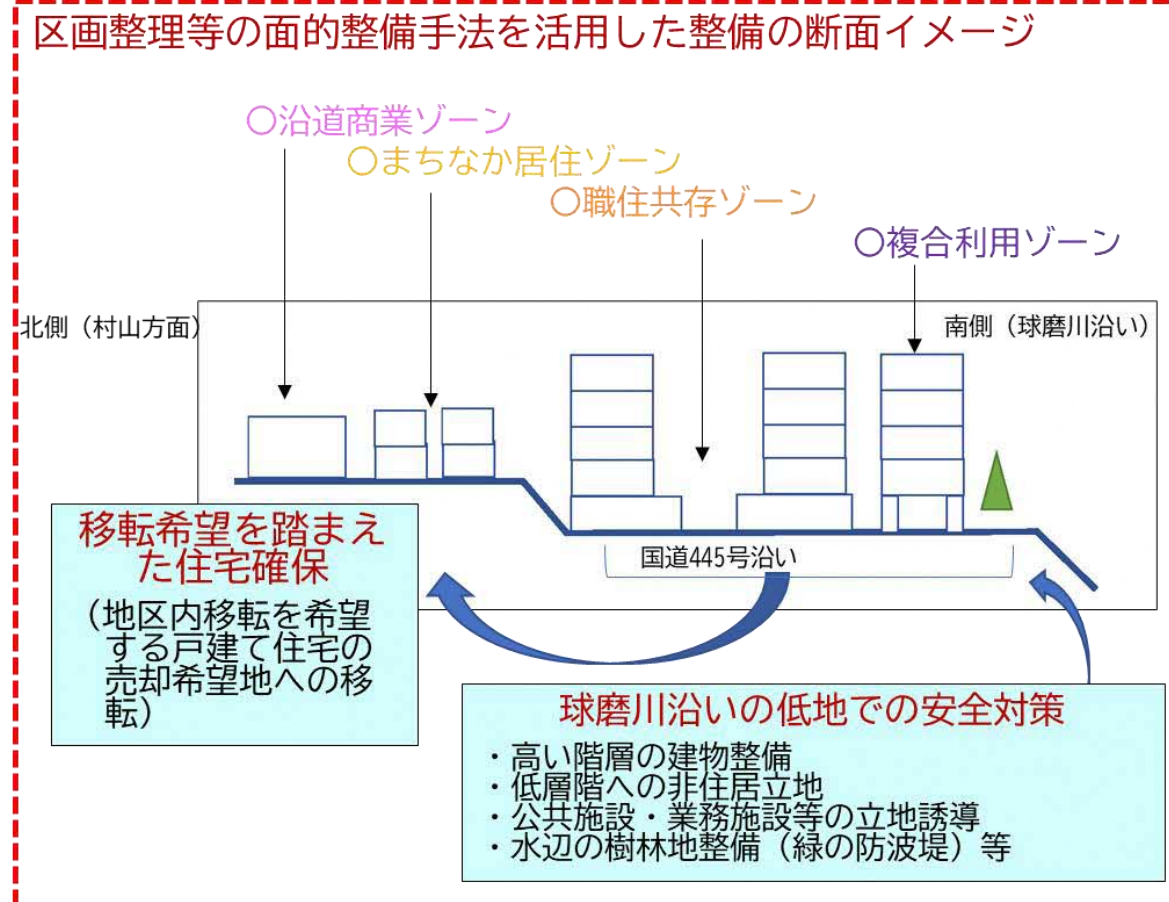
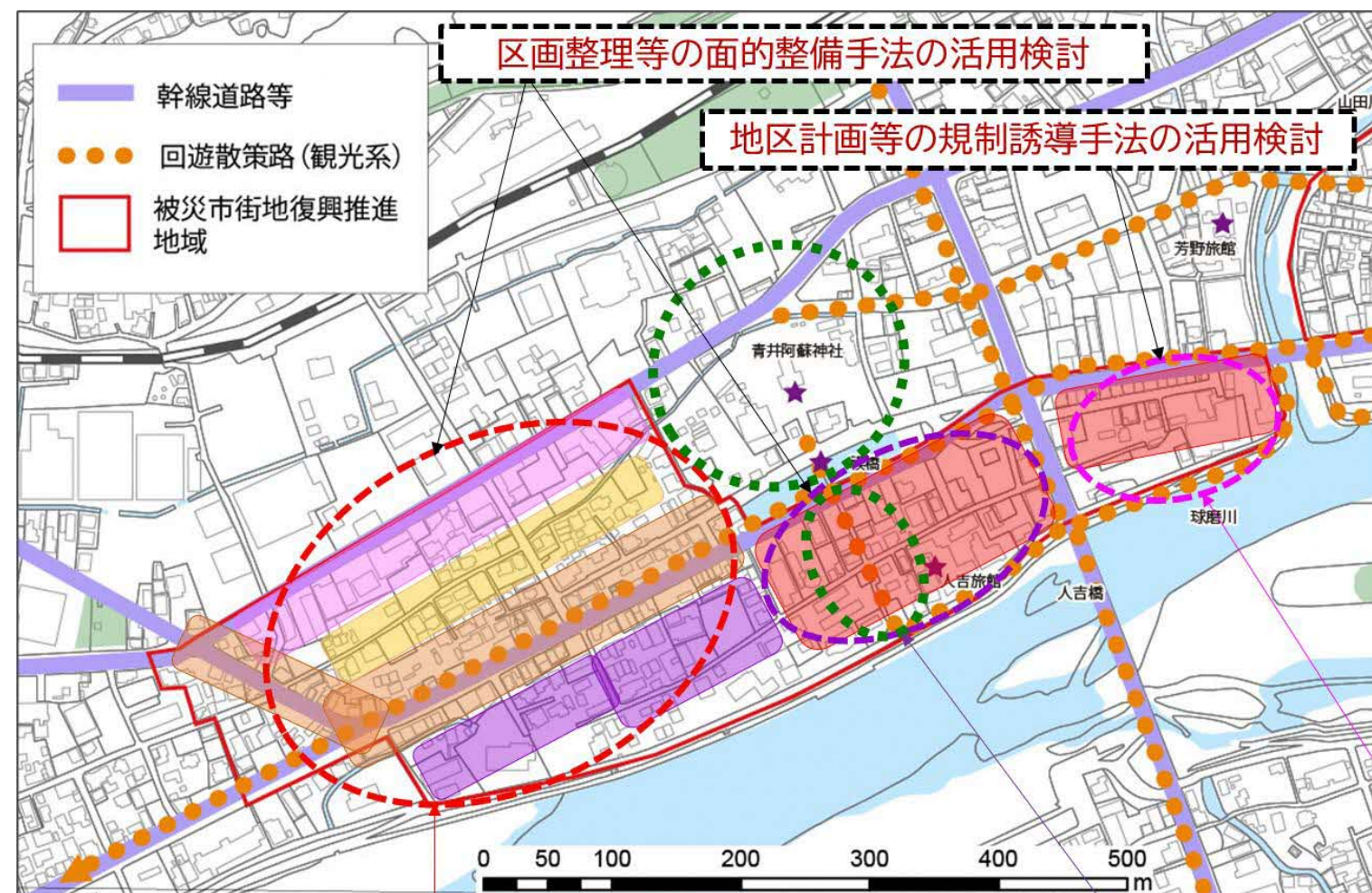


| 避難対策                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                           | 住まい・生業再建                                                                                                                                                                            | 治水・土砂災害対策                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>垂直避難可能な避難ビルの確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高層階のある立体駐車場・ホテル・マンション等への協力依頼</li> <li>・災害時利用の協定の締結、避難ビル指定、利用ルールの検討</li> <li>・新たな建物整備での避難ビル化の検討</li> </ul> <p>※避難ビルは地区別懇談会意見に基づく候補案であり、今後施設内容や所有者意向等を踏まえつつ、候補施設の精査や拡大（新たに整備予定の建物含む）に向けた検討・調整を進めていきます。</p> | <p><b>様々な避難対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災した避難所の建替や浸水対策</li> <li>・一時避難場所の拡充検討と自主避難所の覚書締結</li> <li>・避難所への避難路の確保</li> <li>・防災情報の伝達機能強化</li> <li>・自助共助の避難体制の構築</li> <li>・地域特性を踏まえた地区防災計画の作成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性を高める建て方の誘導</li> <li>・災害公営住宅の導入検討</li> <li>・地域の集会所等の再建</li> <li>・個々の事業所の再建支援</li> <li>・継続的な賑わい創出の取組</li> <li>・公共交通を活かした人の滞留の促進</li> </ul> | <p><b>まちなかの賑わいを高める環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人吉ひかりの復興計画と連携した夜間景観を楽しむエリアの拡大</li> <li>・駅周辺、青井阿蘇神社周辺、中心市街地、IC等が連携し、観光客等の公共交通利用や駐車・乗換等の利便性を高める交通環境の充実</li> <li>・低地での土地利用活性化や中心市街地全体の中での賑わい機能の共存に留意した多様な機能の導入検討（業務系など）</li> <li>・まちなかの空き家・空き地等を活用した定住環境の魅力向上（交流や憩いの場、パブリックスペース・緑地など）</li> </ul> |



# 青井地区 復興まちづくり計画

## 【面的整備手法の活用イメージ】



### 良好な市街地環境の整備

- ・避難路・避難場所となる道路・公園整備
- ・高齢者の居場所づくり、多世代交流等に留意した公園づくり
- ・個性ある景観形成や緑化の促進
- ・幹線道路沿いへの店舗等の日常生活利便施設の立地誘導



快適な市街地環境の形成

### 集客力を高める門前町の拠点整備

- ・門前町らしい歴史性を感じられ交流イベント等も可能な広場等の整備
- ・観光物産・歴史文化発信・観光交流体験等の拠点機能強化
- ・周辺の文化財や水辺等と連携した門前町らしいまち並みと散策環境づくり（ゾーン内散策環境の充実）
- ・交通結節機能の整備（高速バス停留所、観光バス・一般駐車場、サイクリングや新たなモビリティ等の乗継ぎ拠点）

### 土地の高度利用による都市機能強化

- ・土地の高度利用等による賑わい・利便性の強化（観光・交流・商業・各種サービス・駐車場など）
- ・高い建物の避難ビル活用
- ・官民連携事業の検討

### その他の安全対策（区域全体）

- ・浸水に強い建物の誘導（建物1階のピロティ化、想定浸水深以上の居室の確保）（建物構造の耐水化、宅地の盛土・高上げ）
- ・建物の共同化・高度化
- ・グリーンインフラ（雨水浸透型緑地帯など）の導入
- ・雨水貯留施設、調整池、透水性舗装等の導入、など

- 商業・観光ゾーン（歴史文化・観光拠点に隣接する商業地として、生活再建と賑わいを強化）
- 沿道商業ゾーン（幹線道路沿道の既存の商業・業務機能を維持）
- 職住共存ゾーン（国道整備を活かし日常生活サービス店舗やマンション等を導入強化）
- まちなか居住ゾーン（まちなかの利便性を活かした戸建てを主とした住宅地）
- 複合利用ゾーン（ビジネス支援機能やマンションなど、低層住居以外の複合機能を導入）

### 青井阿蘇神社周辺から球磨川への眺望確保

- ・国道445号沿いでの高い建物の立地規制
- ・周辺の歴史文化景観等と調和した良好なまちなみ景観形成の誘導
- ・禊橋～金刀比羅宮～球磨川を結ぶ参道の整備、など



歴史文化を楽しめる賑わいある場づくり



安心・コミュニティや元気を育むまちづくり



### ③ 麓・老神地区 復興まちづくり計画

対象地域

麓町、老神町、新町、田町、南寺町

麓・老神地区は、球磨川や胸川による浸水の危険性に備えて、安全な避難所・避難場所の確保や人吉城址周辺の活性化等に向けた取組を中心に、復興まちづくりを進めます。

#### （１）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

##### 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

###### コミュニティの再生

###### □地域の高齢化、空洞化への対応

○若い世代の住民が減少し、高齢者や空き家が増えていることから、高齢化や空洞化への対応が必要です。

###### 地区別懇談会での主な意見

- ・田町に旧商店街の古い町並みが残っているものの、空き家が多い。
- ・城南家畜保健衛生所前の通りに空き地が増えた。

###### □昼間人口の増加への対応

○人吉医療センター等利用者の多い施設が立地しており、新市庁舎完成後はさらに昼間人口が増加することから、職員向けの駐車場等の確保が必要です。

###### 地区別懇談会での主な意見

- ・現在、医療センター周辺の空き地を月極め駐車場として貸し出している土地が増えている。
- ・新市庁舎完成後は、駐車場が約500台不足するのではないかと。

##### 取組の柱② 力強い地域経済の再生

###### なりわいの再建

###### □人吉城址周辺の活性化

○復興まちづくりの取組と連携し、地域資源を活かした人吉城址周辺の活性化への取組が必要です。

###### 地区別懇談会での主な意見

- ・現状では城址や人吉城歴史館に利用しにくい面がある。
- ・人吉の歴史を市民・観光客が学ぶ場所が必要。

### 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

#### 避難対策

##### □安全な避難場所・避難ルートの確保

- 指定避難所である保健センターは胸川沿いに立地しており、施設までの道も狭いことから、安全な避難場所・避難ルートの確保が必要です。
- 胸川右岸は橋を渡って避難するのが危険なため、右岸側の避難所の確保が必要です。

##### □避難誘導体制の整備と仕組みづくり

- 令和2年7月豪雨では、発災状況の確認が遅れ、逃げ遅れが発生しました。高齢者が避難する手段の確保や、見守り・避難支援の体制強化が必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・町内会長だけが住民の避難誘導の役割を担うのは負担が大きい。
- ・町内会長の業務引継ぎの際、防災に関わる引継ぎが不十分。
- ・排水樋門の管理者が町内に状況を伝える仕組みがない。

#### 治水・土砂災害対策

##### □球磨川本川と支川の合流部の氾濫対策

- 豪雨時は胸川から本川に水が流れ込みづらく、バックウォーターが発生しやすいため、氾濫対策が必要です。

#### 地区別懇談会での主な意見

- ・排水ポンプだけでは排水しきれなかった。

#### 復興まちづくり

##### □地域性を活かした復興まちづくり

- 被災により失われた人吉らしさや各町の独自性をより明確にし、復興まちづくりに活かしていく必要があります。





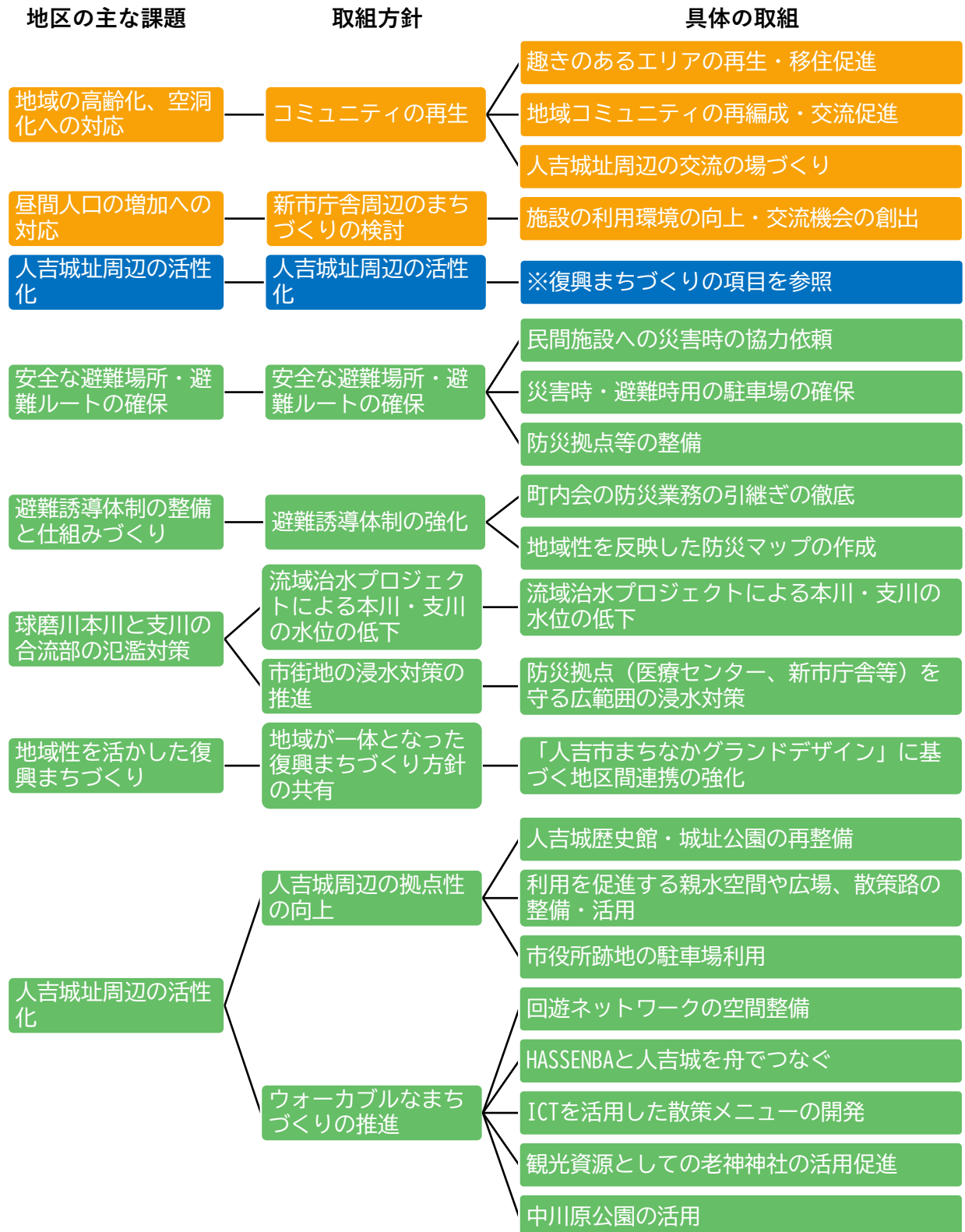




## （２）課題解決のための取組

### 【復興まちづくりの目標】

歴史と未来が共存するまちづくり





## 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

### コミュニティの再生

#### 取組方針1：コミュニティの再生

マンション居住者への町内会加入の呼びかけ等により、若い世代をはじめとした新住民の積極的な受け入れを促進します。また、地区内の空き家等を活用し、若い世代の入居・転入を促進します。

また、人吉城址周辺の空間を活用し、親子や高齢者が集えるような場づくりに取り組みます。

#### 具体の取組

##### ☐ 趣きのあるエリアの再生・移住促進

- ・田町に残る旧商店街の古いまちなみを活用した古民家等のリノベーションを実施。

##### ☐ 地域コミュニティの再編成・交流促進

- ・南町・寺町・新町の町内会の統合を検討。
- ・麓町・南町・寺町の交流促進。

##### ☐ 人吉城址周辺の交流の場づくり

#### 取組方針2：新市庁舎周辺のまちづくりの検討

人吉医療センターや建設中の新市庁舎等、施設利用者や従業者数が多い施設が集積していることから、施設の利用環境の向上や交流機会の創出に資するまちづくりの取組を検討します。

#### 具体の取組

##### ☐ 施設の利用環境の向上・交流機会の創出

- ・職員向け駐車場の確保。
- ・新市庁舎周辺のまちづくりに向けた官民連携組織の立ち上げ。
- ・人吉橋沿線上の飲食店の出店促進（就業者、ファミリー向け）。
- ・城南家畜保健衛生所に立体駐車場の整備（イベント時、災害時、平常時用）。
- ・温泉等を活用したイベントの再開（落語会等）。

## 取組の柱② 力強い地域経済の再生

### なりわいの再建

## 取組方針３：人吉城址周辺の活性化

なりわいの再建や地域の活性化に向け、復興まちづくりの取組と連携し、人吉城址周辺の活性化に取り組めます。

## 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

### 避難対策

## 取組方針４：安全な避難場所・避難ルートの確保

安全な避難をするには、避難する時間帯やルート、移動手段等を考慮した判断が必要になります。

- ・ 胸川左岸の避難所は第一中学校を利用し、垂直避難場所は医療センターや裁判所、将来的には新市庁舎が候補となります。
- ・ 胸川右岸は相良神社、東林寺等を避難所として利用できるよう、協力を依頼します。
- ・ 麓地区の自主避難所は、相良神社を活用します。

### 具体の取組

#### ☐ 民間施設への災害時の協力依頼

- ・ 民間施設の災害時の避難所利用に係る協力依頼及び覚書等の締結（必要に応じて行政支援）。

【候補】相良神社、東林寺、瑞祥寺

#### ☐ 災害時・避難時用の駐車場の確保

【候補】永国寺、相良神社、球磨焼酎酒造組合、原城奥、東間小学校、華の荘リゾートホテル、九州道（人吉 IC～人吉スマート IC）

#### ☐ 防災拠点等の整備

- ・ 新市庁舎を防災拠点として指定。



## **取組方針5：避難誘導体制の強化**

地区内の避難に係る体制を強化するため、地区住民の防災意識の向上や、町内会長の負担軽減・分散や避難誘導体制の強化に取り組みます。

### 具体の取組

#### ☐ 町内会の防災業務の引継ぎの徹底

- ・町内会長の引継ぎ時に、消防団が同席する等して防災業務の引継ぎを強化する。

#### ☐ 地域性を反映した防災マップの作成

- ・市の出前講座の活用や防災まち歩きにより、地区内の危険個所を確認し、各町内の詳細な防災マップを作成。
- ・高齢者・要支援者の連絡網・支援マップの作成。

## 治水・土砂災害対策

## **取組方針6：流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下**

広域的な流域治水プロジェクトと連携し、水位低下への段階的な対策の検討を行います。水辺の景観に留意した堤防のあり方等、まちの風情に適した安全確保の方策を検討します。

### 具体の取組

#### ☐ 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

- ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等。
- ・胸川、球磨川沿いの越水対策（河道掘削等）。

## **取組方針7：市街地の浸水対策の推進**

防災拠点のあるエリアの安全確保を図るため、面的な排水対策について検討・推進します。

### 具体の取組

#### ☐ 防災拠点（医療センター、新市庁舎等）を守る広範囲の浸水対策

- ・防災拠点のあるエリアの面的な排水対策。
- ・老神排水樋門の機能改善（新たな二次放水路の整備など）。

## 復興まちづくり

### 取組方針８：地域が一体となった復興まちづくり方針の共有

地域が一体となって、人吉らしい復興まちづくりに取り組み、良好な市街地環境の形成とくらしの再建に取り組むため、まちの将来像やまちづくりのコンセプト、取組方針を共有します。

住民、事業者をはじめ、まちの関係者でまちづくりの方針を共有し、多様な主体の活躍により、復興まちづくりの取組を推進します。

#### 具体の取組

##### □「人吉市まちなかグランドデザイン」に基づく地区間連携の強化

- ・住民・事業者等、まちの関係者が共有のビジョンを作成し、中心市街地地区、麓町・老神地区を含むまちなか全体の活性化にもつながるよう、相互に連携し、多様な主体の活躍により復興まちづくりを進める。

### 取組方針９：人吉城址周辺の拠点性の向上

市民、観光客が集う城址公園を目指し、人吉城歴史館や周辺環境の再整備の他、ふるさと歴史の広場等の交流空間の活用等に取り組みます。

#### 具体の取組

##### □人吉城歴史館・城址公園の再整備

（例）観光情報センター、カフェ、東屋としての機能の整備、地下展示の再開、入場料の無料化

- ・収蔵品を安全な場所へ保管（移動）。

##### □利用を促進する親水空間や広場、散策路の整備・活用

- ・ふるさと歴史の広場を川と親しむ場として活用。活用に必要な整備を実施。

（例）イベント会場としての活用、定期的な朝市等の実施、キッチンカーの乗入促進、レストラン・茶屋の出店、城壁下の散策道整備等

- ・城址公園の整備。

（例）取付道路、キャンプ場の整備

- ・城址公園の利用促進。

（例）二ノ丸等を会場としたイベントなど

- ・城址内、ふるさと歴史の広場内の街灯再整備。

##### □市役所跡地の駐車場利用 ※最優先で取り組む

## **取組方針 10：ウォーカブルなまちづくりの推進**

地区の拠点となる人吉城址周辺とまちなか全体とのネットワーク形成に向け、回遊性を向上させる空間整備や仕組みの導入等に取り組みます。

### **具体の取組**

#### **□回遊ネットワークの空間整備**

- ・大橋から水の手橋間の、夜のそぞろ歩きができる空間整備。
- ・ウォーキング、ランニングコースの整備（歩道の拡幅等）。
- ・永国寺から大手門にかけた道路の桜並木の整備。
- ・「人吉ひかりの復興計画」に基づく魅力発信

#### **□HASSENBA と人吉城址を舟でつなぐ**

#### **□ICT を活用した散策メニューの開発**

- ・タブレット端末等での CG 再現。
- ・発掘調査・研究が進められる中世人吉城の将来的な活用。

#### **□観光資源としての老神神社の活用促進**

- ・神事の活性化等（※要協議）。

#### **□中川原公園の活用**

- ・人が集う場所としての中川原公園内の再整備（人吉城歴史館側から川を渡って公園にアクセスできる工夫など）









## ④ 球磨川左岸地区 復興まちづくり計画

対象地域

西間下町、矢黒町、下戸越町

球磨川左岸地区は、球磨川と支流、急傾斜地に挟まれており、浸水と土砂災害の危険性があるため、「早めの避難」の徹底や「安全な避難」を実現するために必要となる取組を中心に、復興まちづくりを進めます。

### （１）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

#### 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

##### 住まいの再建

##### □各戸の安全性の向上

○今後の災害リスクに備え、住まいの安全性を高める取組が必要です。

#### 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

##### 避難対策

##### □安全な避難ルートの確保

○土砂災害や浸水の危険性がある道路が多く、道幅も狭いため避難路が脆弱であり、安全な避難ルートの確保が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・ 矢黒の集落内は道が低く、早い時間帯に浸水して通行できなくなるため、孤立化しやすい。避難所（西瀬小学校）、自主避難所（矢黒公民館）や避難場所になる高台（ま心周辺）へ行くルートが浸水しやすい。
- ・ 消防団（第4分団第2部）の出動ルートに水が流れ込みやすく、沿道の竹などが倒れ込んだ場合は出動の妨げになるため、それを取り除く活動が必要。

##### □近所の避難体制の構築（「近助」）

- 消防団や町内会役員には人手もできることも限りがあり、隣近所での助け合いの体制強化が必要です。
- 避難情報の周知等には、デジタルツールを使えない方への支援体制の強化が必要です。
- 支援体制の強化には、避難行動要支援者名簿の効果的な活用が考えられます。

##### □消防団の安全確保

- 消防団（第4分団第2部）の詰所が川沿いにあり、浸水被害等の危険性があることから、消防団の安全確保が必要です。



#### □緊急時に避難ができる場所の確保

- 指定緊急避難場所まで行けない場合や緊急に避難を要する場合等に、命を守る避難場所の確保が必要です。
- スムーズに安全な避難を完了できるよう、避難場所、避難所のキャパシティや移動を踏まえた避難を実現することが必要です。

#### □ペットの同行避難への対応

- 避難所におけるペットの受け入れ体制を検討しておく必要があります。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・ペットと同行避難できないことを理由に、避難を躊躇するケースがある。

### 治水・土砂災害対策

#### □浸水リスクと土砂災害リスクへの対応

- 球磨川左岸地区は、球磨川と急傾斜地に挟まれ、球磨川の氾濫以外に、山から支川や農業用水路に流れ込んだ水があふれて浸水する他、土砂災害の危険性もあり、浸水リスクと土砂災害リスクの双方に対応していく必要があります。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・矢黒第二排水樋管周辺など地区内に浸水しやすい地点があり、周辺の低い道路は早い時間帯から通行不能になる。







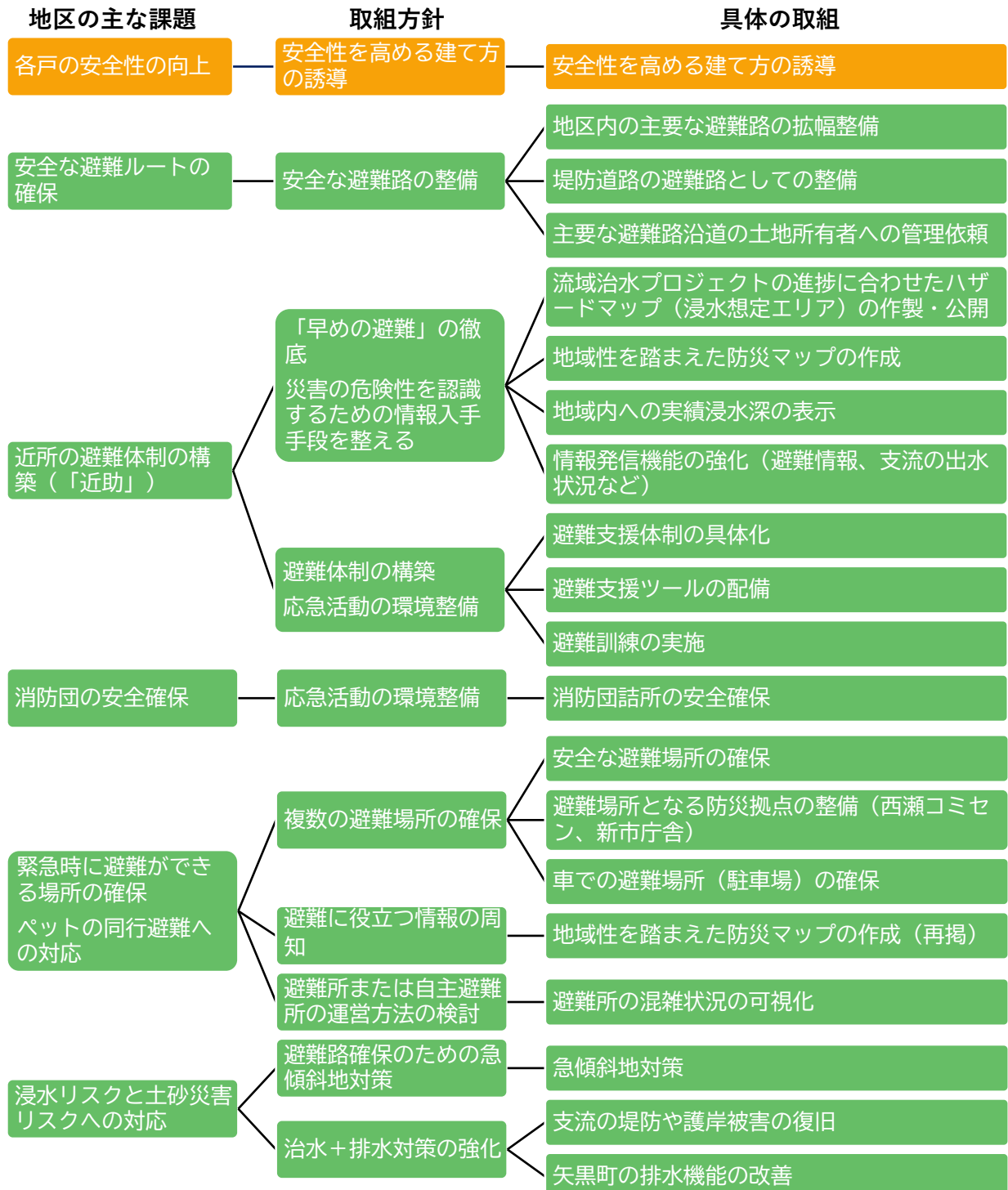




## （２）課題解決のための取組

### 【復興まちづくりの目標】

地域を見つめ直し、  
住民・地域・関係機関が相互に様々なコミュニケーションを通して行う  
災害に強いまちづくり



## 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

### 住まいの再建

#### 取組方針1：安全性を高める建て方の誘導

住まいの再建や新築に際し、安全性の高い建て方を促進します。

##### 具体の取組

##### □安全性を高める建て方の誘導

（例）建物1階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保、建物構造の耐水化、住宅再建に係る各種スキームの説明会の開催

## 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

### 避難対策

#### 取組方針2：安全な避難路の整備

土砂災害の危険区域や浸水しやすい箇所及び避難先（場所、キャパシティ等）、救助活動のしやすさ等を踏まえた避難路の整備を行います。

##### 具体の取組

##### □地区内の主要な避難路の拡幅整備

・矢黒第二排水樋管の通る浸水しやすい箇所の嵩上げ（堤防高に擦り付け）。

##### □堤防道路の避難路としての整備

・ガードレールの設置及び、河川管理道路区間の直線での通り抜け整備。（道路の整備と併せて、車のスピードを抑える対策も実施）

##### □主要な避難路沿道の土地所有者への管理依頼



### 取組方針3：「早めの避難」の徹底

避難できる道や方法がある時間帯の「早めの避難」を徹底します。

### 取組方針4：災害の危険性を認識するための情報入手手段を整える

油断を防ぐため、平時から地域の災害リスクを知り、降雨時には周辺の状況や避難に関する情報などを入手することができる手段を用意します。情報の入手・共有に当たっては、デジタルツールの活用その他、高齢者等への情報共有方法に配慮します。

#### 具体的取組

- 流域治水プロジェクトの進捗に合わせたハザードマップ（浸水想定エリア）の作製・公開
- 地域性を踏まえた防災マップの作成
  - ・ハザードマップだけでは読み取れない危険性も含めた地域が主体となった防災マップの作成。
  - ・避難の必要性を判断する地域独自の「小さなきっかけ」等も掲載する。
- 地域内への実績浸水深の表示
  - ・令和2年7月の痕跡水位を電柱等に掲示。
- 情報発信機能の強化（避難情報、支流の出水状況など）
  - ・各世帯への防災ラジオの配布（市より、令和3年6月から順次配布）。
  - ・支流の出水状況をきめ細かく情報発信する機能の強化。
    - 土砂詰まりしやすく、浸水しやすい地点への浸水検知センサーの設置（周辺住民へ情報共有できるシステム）。
    - 胸川上流へのライブカメラの設置。

### 取組方針5：避難体制の構築

班などの小さな単位で避難する体制づくりや、町内会・自主防災組織・消防団との連絡体制の構築を行います。

#### 具体的取組

- 避難支援体制の具体化
  - ・要支援者の支援体制の分担と、分担に基づく訓練の実施。
- 避難支援ツールの配備
  - （例）防災リヤカー（西間下町）
- 避難訓練の実施
  - ・実際に起こり得る状況を想定した、効果的な避難訓練の実施。

## 取組方針6：応急活動の環境整備

消防団が安全に活動できるよう環境整備を行います。

### 具体の取組

#### □消防団詰所の安全確保

- ・消防団（第4分団第2部）詰所の移転検討。

## 取組方針7：複数の避難場所の確保

指定緊急避難場所の他、民間の施設や私有地も含め、水害時の一時避難が可能な避難場所を複数確保します。

### 具体の取組

#### □安全な避難場所の確保

(案)【西間下町】西間下町公民館、新市庁舎、県振興局 等

【矢黒町】矢黒町公民館、ま心周辺の高台、蓬莱配水池周辺 等

【下戸越町】西瀬団地、市営三日原団地 等

※避難する時間帯やルート、移動手段等を考慮して判断する必要がある。

- ・ま心の高台に上がる道路が浸水した場合に備え、高台西側の里道（山道で滑りやすい）を整備。
- ・指定の避難所以外で垂直避難ができそうな施設の管理者への相談。
- ・隣接する町同士で連携する避難体制の構築
- ・ペットの同行避難の対応

#### □避難場所となる防災拠点の整備（西瀬コミセン、新市庁舎）

- ・西瀬コミュニティセンターを移転し、防災まちづくり拠点の機能を持つ施設として整備する。

#### □車での避難場所（駐車場）の確保

(案)県振興局、新市庁舎周辺（弓道場や社会福祉協議会付近）、高台の民地 等

## 取組方針8：避難に役立つ情報の周知

どこに避難するべきか判断できるよう、避難場所・避難所の位置以外の情報についても事前に共有します。

### 具体の取組

#### □地域性を踏まえた防災マップの作成（再掲）

- ・避難先を判断する際に役立つ情報を防災マップに掲載する。

(例) 避難所のキャパシティ、駐車場、駐車可能台数、トイレの有無 等



## 取組方針 9：避難所または自主避難所の運営方法の検討

ペットの同行避難の他、避難や避難生活に関する地域のニーズに備え、事前の検討を行います。また、避難の時期、ルート、場所、運営面など避難の方法を具体化し、車での避難ができる場所（駐車場）の確保や、避難先が一箇所に集中しないよう、分散させる工夫にも取り組みます。

### 具体の取組

#### ☐ 避難所の混雑状況の可視化

- ・スマートフォンで避難所の空き状況を確認できるアプリの導入。

## 治水・土砂災害対策

## 取組方針 10：避難路確保のための急傾斜地対策

避難路の安全性を上げるため、急傾斜地対策を行います。

### 具体の取組

#### ☐ 急傾斜地対策

## 取組方針 11：治水＋排水対策の強化

矢黒第二排水樋管や矢黒町内の排水機能を強化し、周辺の道路を通行できる時間を確保します。

### 具体の取組

#### ☐ 支流の堤防や護岸被害の復旧

※令和3年度中に工事着手予定

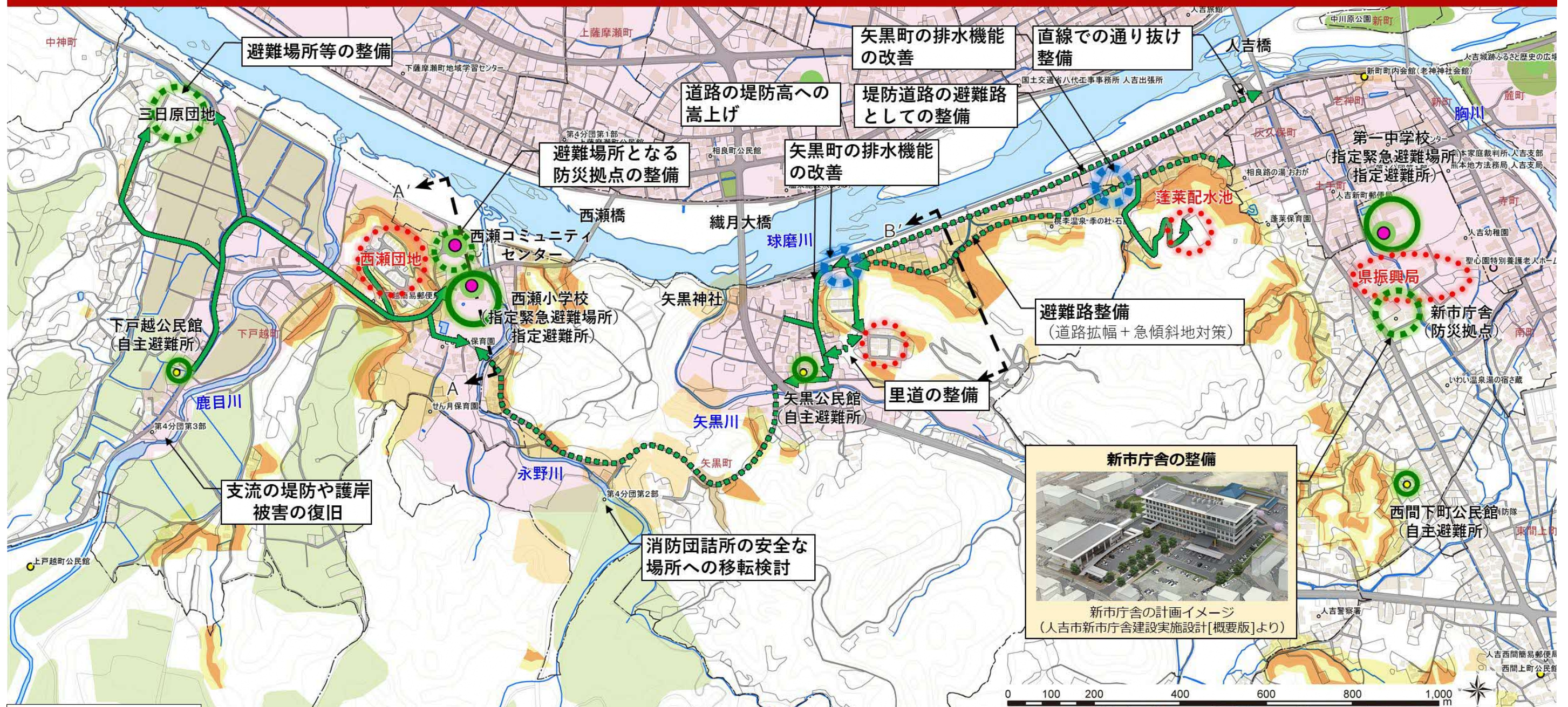
#### ☐ 矢黒町の排水機能の改善

- ・矢黒町内の排水路や矢黒第二排水樋管等を改善し、排水機能を強化する。

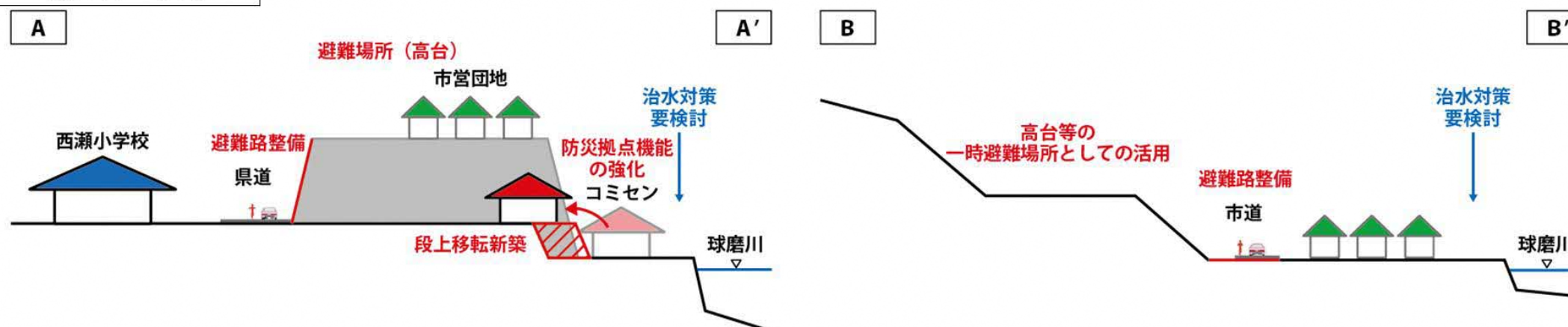




# 球磨川左岸地区 復興まちづくり計画【地区整備方針・避難ルート図】



断面イメージ図



- 凡例
- 避難路（現況）
  - 避難路※
  - 避難場所、避難所
  - 避難場所、避難所※
  - 安全な避難場所
  - ※要整備
  - 避難場所・避難所
  - 指定緊急避難場所
  - 指定避難所
  - 自主避難所
  - 福祉避難所
- 土砂災害の危険区域
- 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
  - 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
  - 地すべり調査予定
  - 急傾斜地調査予定
  - 土石流調査予定
- 浸水想定区域
- 想定最大規模（L2）
- その他
- 農用地区域





## ⑤ 薩摩瀬地区 復興まちづくり計画

### 対象地域

宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、下城本町

薩摩瀬地区は、球磨川や御溝川による浸水の危険性があるため、避難経路や避難支援など避難方法の見直しや、地区内での緊急避難場所の確保、住まいの再建における安全性の向上等の取組を中心に、復興まちづくりを進めます。

### （１）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

#### 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

##### 住まいの再建

##### □住まいの再建における安全性の向上

- 全壊した住まいが多数あり、嵩上げ等、治水対策の取組を踏まえた再建方針の検討と安全性を高める取組が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・基本的には薩摩瀬地区に住み続けたく、地区内での再建を望んでいる方が多い。（金銭的な理由もある）。
- ・避難を機に市外に住む人も多く、意向がわからない。
- ・仮設住宅の入居期間が短い。

##### コミュニティの再生

##### □地域の活動拠点とコミュニティの再生

- 地域コミュニティの活動を支える機能を担う公民館に被害を受けており、再建への取組が必要です。
- 全壊した住まいが多数あり、地区に戻ってきていない避難者もいることから、地域コミュニティの再生が必要です。

#### 取組の柱② 力強い地域経済の再生

##### なりわいの再建

##### □農地の再生と農業従業者の支援

- 農業従事者の移転等により農地の再生に課題を抱えており、農業従事者への支援等の方策が必要です。



### 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

#### 避難対策

##### □安全な避難ルートの確保

- 国道 219 号が濁流状態になり、御溝川等の内水氾濫により通れない道があった等、避難に支障が出たため、安全な避難ルートの確保が必要です。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・ 民地の敷地を抜けて避難した例もあった。
- ・ 避難車両で混雑する道路や、浸水する避難路があった。

##### □避難施設の確保・改善

- 歩いて避難できる近い範囲に避難施設が不足しており、新たに避難施設の確保が必要です。また、地区内に高い建物がほとんどないため、水害時に緊急避難（垂直避難）ができる場所が必要です。
- 一時避難場所（公民館）から指定避難場所（スポーツパレス）への自動車避難には、指定避難場所の駐車場が不足しています。

##### □安全な避難方法の確立

- 令和２年７月豪雨では、防災無線のアナウンスが聞こえなかったため、別の情報入手手段の用意が必要です。また、夜間はライブカメラの映像も水位の判断がしづらいため、複数の情報入手手段を確立しておく必要があります。
- 自動車の運転ができず歩くのも大変な高齢者等が速やかに避難しづらく、要支援者への対応が必要です。早めの避難できる体制づくりや避難状況を確認する安否確認方法の仕組みづくりに取り組む必要があります。

##### 地区別懇談会での主な意見

- ・ 地区住民と消防団員のつながりが薄い。
- ・ 自主防災組織は結成済で、組織率は高いが、活動機会は少ない。

#### 治水・土砂災害対策

##### □球磨川本川の氾濫対策

- 令和２年７月豪雨では、堤防の損傷と氾濫流により家屋倒壊が発生しました。国の治水対策と連携し、球磨川本川の氾濫対策を推進する必要があります。

##### □万江川等の支川の氾濫対策

- 球磨川本川の対策と合わせて、万江川等の支川の氾濫対策も必要です。

## □小河川の氾濫対策

○御溝川等の小河川が氾濫し、球磨川本川の越水より先に浸水したことから、小河川の氾濫対策も必要です。

### 地区別懇談会での主な意見

- ・以前に平安閣のところから御溝川排水路をつくる話があったが、利水の関係でできなかった。







## 薩摩瀬地区 現況 ・ 令和2年7月豪雨の被害 ・ 災害危険性



避難場所・避難所

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 自主避難所
- 福祉避難所
- （被災）自治公民館

## 道路幅員

- 15m以上
- 6m以上 15m未満
- 4m以上 6m未満
- 4m未満
- 都市公園
- 土地利用現況（道路用地のみ）
- 急傾斜地調査予定
- 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
- 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

## R2年7月豪雨 実績浸水深

- 0.5m未満の区域
- 0.5m以上 ～ 1.0m未満
- 1.0m以上 ～ 2.0m未満
- 2.0m以上 ～ 3.0m未満
- 3.0m以上 ～ 4.0m未満
- 4.0m以上 ～ 5.0m未満
- 5.0m以上 ～ 6.0m未満
- 6.0m以上 ～ 7.0m未満
- 7.0m以上 ～ 8.0m未満
- 8.0以上の区域

## 想定最大規模（L2） 浸水想定区域

浸水想定区域



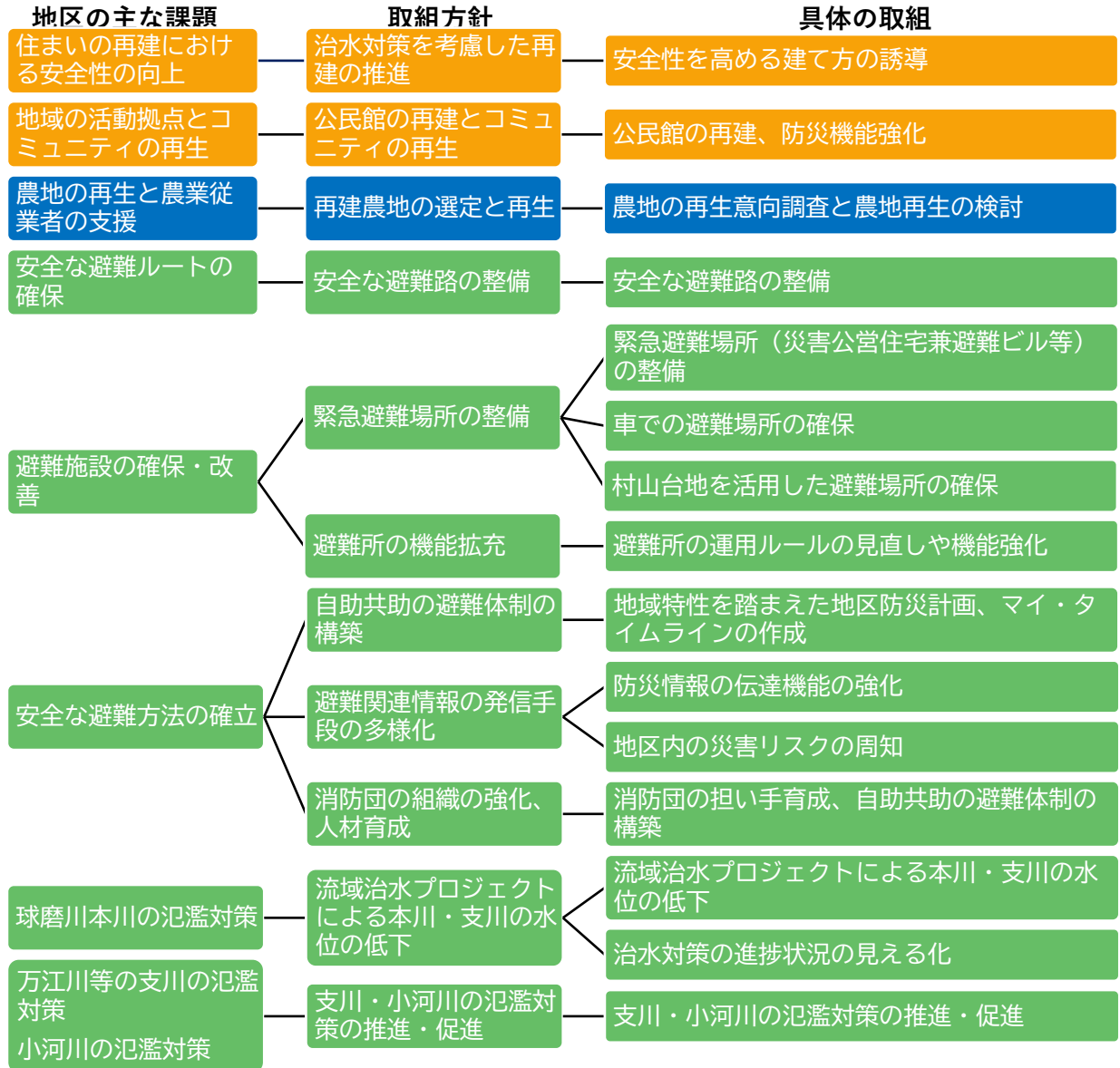




## （２）課題解決のための取組

### 【復興まちづくりの目標】

散歩道に花が咲きホタルが飛ぶ、  
住んで良かったと思えるまちづくり



## 取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

### 住まいの再建

#### 取組方針1：治水対策を考慮した再建の推進

現地での住まいの修復や再建は、安全性を確保する治水対策を考慮して推進します。

##### 具体の取組

##### □安全性を高める建て方の誘導

- ・建物1階のピロティ化、浸水深以上の高さに居室を確保、建物構造の耐水化。  
※現地再建を基本とし、耐水構造となる建て方を緩やかに誘導すると同時に、水害のみならず、耐震化にも留意。
- ※土地利用状況、地質・地盤状況、再建方法の意向等を踏まえ、広域的な広がり等を調整しながら推進。
- ・新しい宅地や、これからの住みよい環境、まちなみの整備。

### コミュニティの再生

#### 取組方針2：公民館の再建とコミュニティの再生

安全性を確保したうえで、集まって楽しいコミュニティ再生に資する施設を確保するため、コミュニティ機能を担う公民館の再生に取り組みます。

##### 具体の取組

##### □公民館の再建、防災機能強化

- ・現公民館の防災機能強化や地域の結束力を高める取組を推進し、利活用される公民館に再生。

## 取組の柱② 力強い地域経済の再生

### なりわいの再建

#### 取組方針3：再建農地の選定と再生

持続的な営農環境を整えるための支援を行います。

##### 具体の取組

##### □農地の再生意向調査と農地再生の検討

- ・継続意向を確認のうえ土地の集約化等を行い、持続的な営農を支援。



### 取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

#### 避難対策

#### 取組方針4：安全な避難路の整備

避難所までの安全な避難路を整備し、複数の安全なルートを確認する避難路ネットワークの形成を進めます。

##### 具体の取組

##### □安全な避難路の整備

- ・スポーツパレスから村山公園への避難路の整備、御溝川沿いの散歩道の拡幅。
  - ・自動車が離合できる避難路ネットワークの形成。
  - ・側溝等の暗渠化による道路幅員の確保、ブロック塀の倒壊等にも配慮。
- ※道路拡幅の実現はすぐには難しく、タイムラインに沿った交通規制や危険区域への立入を規制する避難方法も併せて検討。

#### 取組方針5：緊急避難場所の整備

徒歩圏内に緊急避難場所を確保するため、避難ビル等の整備・指定を行います。また、避難時の荷物の運搬や水が引いた後の活動を支える自動車の避難に対応する避難場所を確保します。

##### 具体の取組

##### □緊急避難場所（災害公営住宅兼避難ビル等）の整備

- ・浸水深以上の高さに避難場所がある避難ビル機能を持った災害公営住宅の整備等。
- ・隣近所2・3軒で避難できるよう、協力してもらえる家や事業者の把握及びリストの作成。

##### □車での避難場所の確保

- ・ニシムタ（大型店舗でトイレも備える施設）の駐車場を非常時に使えるよう、市とニシムタ間で協定を締結（買物客と区別するための証票が必要）。

##### □村山台地を活用した避難場所の確保

## 取組方針６：避難所の機能拡充

新型コロナウイルス等の感染症に対応し、避難所の分散や機能拡充に取り組みます。

### 具体の取組

#### □避難所の運用ルールの見直しや機能強化

- ・指定避難所、福祉避難所の運用ルールの見直し。
- ・避難所の機能強化（ペット同行避難が可能な避難所等）。

## 取組方針７：自助共助の避難体制の構築

自立的避難が困難な高齢者等の要配慮者を対象に、支援者の身の安全も守ることができる体制も考慮した避難の呼びかけや救出の仕組みづくりに取り組みます。

### 具体の取組

#### □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成

- ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成。
  - ・地区防災計画等の作成に向け、市の「出前講座」を活用。
  - ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での避難訓練を実施。
  - ・コミュニティ形成を活かした着実な計画の作成、防災訓練等の着実な実施による実効性の向上。
- ※仮設住宅の人への配慮、国・県による流域治水の取組との連携。

## 取組方針８：避難関連情報の発信手段の多様化

避難に必要な情報の入手手段や地区内への周知方法の多様化を図ります。

### 具体の取組

#### □防災情報の伝達機能の強化

- ・各世帯への防災ラジオの配布（市より、令和３年６月から順次配布）。

#### □地区内の災害リスクの周知

- ・災害時に通行不能な道路や想定浸水深の表示。

## 取組方針９：消防団の組織の強化、人材育成

水害からの避難や他の災害への対応において、地区の消防団の存在が重要であり、地域防災力を高めるため、団員間や町内会との結束を高めるコミュニティづくりや地域行事等を推進します。

### 具体の取組

#### □消防団の担い手育成、自助共助の避難体制の構築

- ・町内支援ネットワークの「サポーター」の拡充。
- ・避難したかどうか分かる目印（黄色い旗、ハンカチ等）の掲出。
- ・発災後も速やかに運搬作業できるように、避難時に積載車を安全な所へ移動。
- ・消防団の担い手の育成、コミュニティの強化、若手の定住化。
- ・町内会と消防団とで避難の検証を実施。
- ・避難の備えとなるライフジャケットの購入を検討する。

### 治水・土砂災害対策

## 取組方針１０：流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

国・県による流域治水の取組と連携したまちづくりを推進します。また、取組の進捗に応じた水害リスクの改善状況の見える化に取り組みます。

### 具体の取組

#### □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

- ・河川の浚渫、河道の掘削を進め、川の流量を増やす。
- ・堤防の強化等。

#### □治水対策の進捗状況の見える化

- ・治水対策の進捗状況、水位の変化等、定期的な情報の発信。（１～２年毎の見える化）



## **取組方針 11：支川・小河川の氾濫対策の推進・促進**

放水路の整備、排水機場等の耐水化、低未利用地を利用した浸透・雨水貯留施設等の整備により内水対策を進め、被害の軽減や避難時間を確保します。

また、ライブカメラ映像を住民全員が見られるような仕組みづくりを行います。

### **具体の取組**

#### **□支川・小河川の氾濫対策の推進・促進**

- ・放水路、排水機場等の耐水化、浸透・雨水貯留施設等の整備。
- ・道路拡幅とは別に、御溝川の排水を強化。
- ・河川の状況や避難等の情報を、誰もが入手できて使えるようにする講座を開催するなど、リテラシーの向上を図る。
- ・河川や避難等の情報を集約するポータルサイトの構築。



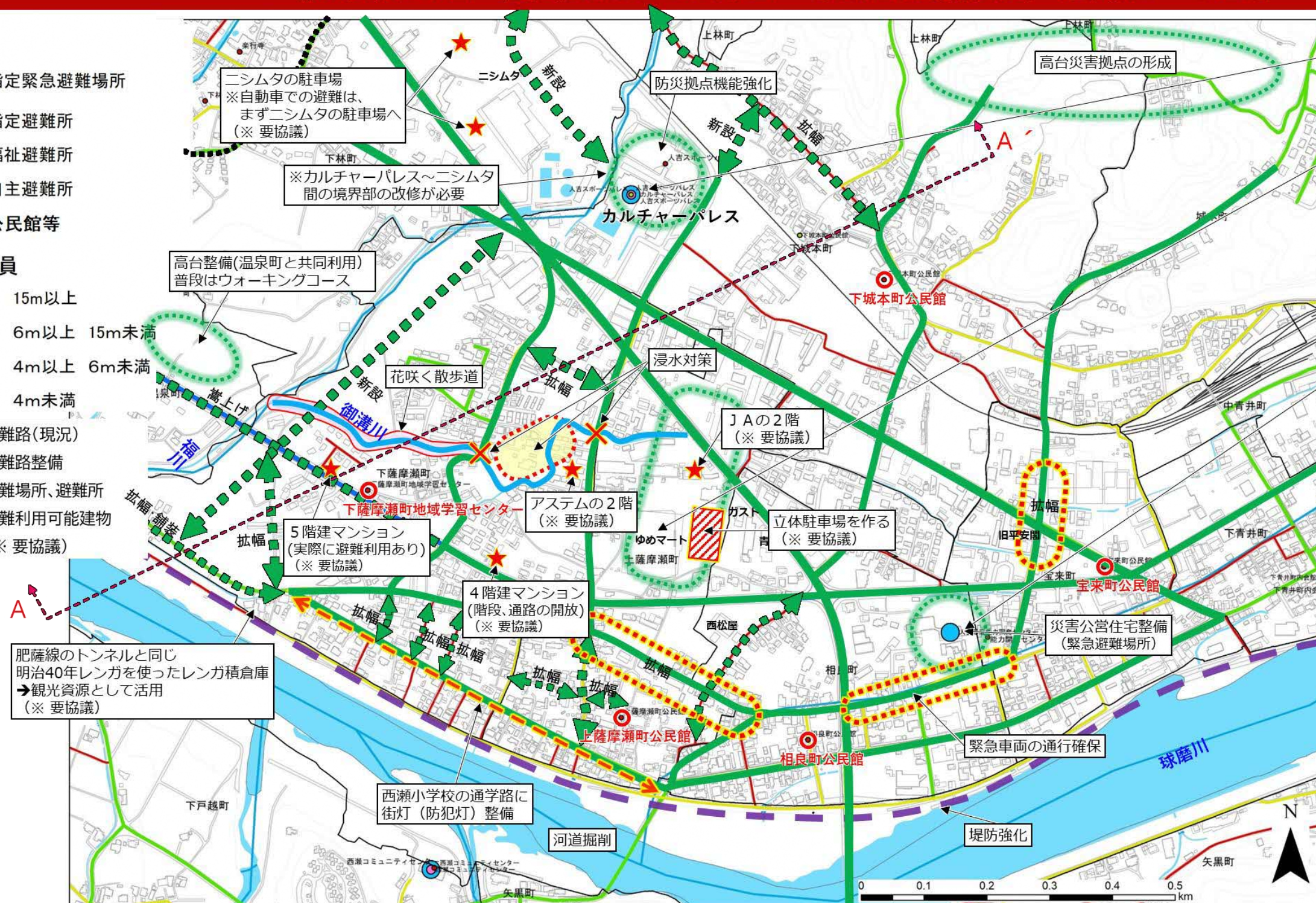
**薩摩瀬地区 復興まちづくり計画 【地区整備方針・避難ルート図】**

## 凡例

-  指定緊急避難場所
-  指定避難所
-  福祉避難所
-  自主避難所
-  公民館等

## 道路幅員

-  15m以上  
 6m以上 15m未満  
 4m以上 6m未満  
 4m未満
-  避難路（現況）  
 避難路整備  
 避難場所、避難所  
 避難利用可能建物  
 （※ 要協議）



## 断面イメージ図



## カルチャーパレス

防災拠点としての安全性、機能拡充を推進、市街地からの避難経路を確保。

## 大型量販店の防災施設活用

自治体と協定を結び、大型量販店のBCP等として、災害発生時における商品調達・物流網機能、緊急避難場所として施設を利活用（※要協議）。

## 緊急避難場所整備

避難路沿いに、逃げ遅れた際に逃げ込める想定最大規模以上の避難タワー・避難ビルを整備。



災害公営住宅  
(岩手県陸前高田市下和野地区)

**公民館・コミュニティ施設**

交流の場、防災機能の拡充に配慮しつつ、集会所を復旧。

## 避難路整備

避難開始早期にて多方向に避難ができるように避難道路の拡幅・嵩上げ。  
ブロック塀等の倒壊にも配慮。



上薩摩瀬町公民館前市道（離合困難）

## 市街地の浸水対策

堤防強化、放水路などとともに、嵩上げ、建物1階ピロティ化、建物構造耐水化などを推進。

## 農地の集約化、利活用

継続意向に基づき、有効的な土地利用を推進、条件付きによる農地外転用。

## 小河川の整備、排水機場整備、耐水化

小河川の雑草等を定期的に撤去し、清らかな水辺環境を維持するとともに、各小河川の排水機場の整備・耐水化を促進する。



